



米沢で創立130周年を盛大に祝う

公益社団法人米沢有為会は今年創立130周年を迎え、6月22日(土)東京第一ホテル米沢で記念式典を挙行了しました。

＜支部総会＞ 同日午前11時から同ホテルで米沢支部総会が行われ、約40名の会員が出席しました。議事では平成30年度の庶務報告と決算報告が承認された後、役員の定時改選案では中川勝支部長の再選と32名の理事、2名の監事が承認されました。次に、令和元年度の事業計画案と予算案が原案通り可決されました。最後に、我妻榮記念館の事業報告及び決算並びに事業計画案及び予算案が承認されました。

＜定時総会・記念式典等＞ 午後1時30分からの第6回(通算132回)定時総会には約60名の会員が出席し、大滝則忠会長を再選したほか、平成30年度の各報告及び令和元年度の計画案・予算案が承認されました。

次に、3時10分からの記念式典には約80名が出席、大滝則忠会長が式辞を述べ、明治22年以来的歴史を振り返り、今後とも未来を担う置賜若人の夢を育英事業で支援していくことを誓いました。続いて中川勝米沢市長が祝辞を述べました。

式典後の表彰式では、1個人に産業功労賞、2団体と9個人に特別賞が贈られました(詳細は次ページに)。その後、有限責任監査法人トーマツのマネージャー対木さおり氏の記念講演、祝賀会と続き、会員相互の交流を深め130周年を盛大に祝いました。

米沢有為会
米沢支部だより

第 39 号

令和元年 9 月10日

発行者

(公社)米沢有為会米沢支部

支部長 中川 勝

米沢市金池5-2-25

☎ 0238-22-5111



米沢支部
副支部長

伊藤 和夫

郷土を担う人材育成

本年創立130周年を迎えた米沢有為会は、伝統を継承するとともに、時代の変化に応じた存在に変わっていくべく、この節目に議論を重ね、今まであまり重きを置かなかった郷土に軸足を据えた取組をすることになりました。それが、若者を対象にした「高校生小論文コンテスト」であり、「若人フォーラム」です。

時あたかも、人口減少が進み地方衰退の危機に瀕しつつあります。地方創生の動きはあるものの、はかばかしい効果は見えてきません。そもそも人口減少の要因は何か、それを探るとその一要因として毎年繰り返される「若者流出」があります。高校を卒業すると進学・就職で7割が出ていき、多くが戻らない。その理由が、戻る受け皿としての働く場がないということです。

このような実態を受け止めつつ、さて、それではこのままで良いのか、諦めるのか、策はないのかという考えを挙げ、これからまさに将来の日本や郷土を支えていく高校生らの若者を巻き込んで、直接この難問をぶつけてみることにしました。

「高校生小論文コンテスト」は、昨年度から始めて2回目、置賜地区高校2年生を対象にして、テーマ「郷土の未来と私の生き方を考える」について、資料編(人口減少の推移、その要因、取り組まれている諸対策等)を提示して、暑い夏の盛りに2か月間じっくりと取り組んでもらうのです。将来の進路をどのように選択しようとも、この問題を考えてみる価値は大いにあると考えます。

「若人フォーラム」では、地区内高等学校が地域に対する関心や思いを育て地域と係わる探究的な学習に取り組んでいるその学習成果を一堂に会して地域の人々に発表します。また、高校生や地域行政・地元企業で活躍する若者らが地域の未来に関して公開討論を行います。これは創立130周年記念事業として位置づけ来年1月に実施します。

これらを通して、地域に関心を持ち将来地域を担おうとする多くの若者を育てたいと考えています。そしてこの取組を担っていただくのは、まさに米沢支部の会員の皆様です。色々な面でお力添えをお願いいたします。

2団体、11個人を表彰

記念式典に引き続き、表彰式が行われました。表彰規則に基づき、今回は次のとおり2団体と10個人が表彰され、上杉邦憲名誉会長と大滝則忠会長から賞状と記念品が授与されました。なお、教育文化功労者は該当者がいませんでした。
(以下、学校・学年は平成30年度のものです。)



産業功労者

〈個人〉

▼内藤 文徳氏

置賜地区の観光の中心的な施設の経営者として、また、公益社団法人山形県観光物産協会並びにやまがた観光キャンペーン推進協議会の両副会長、一般社団法人米沢観光コンベンション

協会の会長、顧問として、長年にわたり山形県及び置賜地域、米沢市における観光誘客や受入れ態勢の整備、県産品の販売拡大に尽力するとともに、JR東日本のデスティネーションキャンペーン、やまがた花回廊キャンペーンの牽引役として、山形県並びに米沢市における観光客の拡大、産業の発展に大きく貢献された。

また、平成30年4月に開設された「道の駅米沢」では、平成25年より基本構想検討委員会の委員長として指導的役割を担うとともに、運営会社である第3セクター設立後は、代表取締役会長に就任し、観光資源の魅力向上や特産品の販売拡大に尽力し、当市産業の振興発展に大きく寄与された。

〈賞罰〉

- ・平成22年「山形県商工観光功労者表彰」
- ・平成22年「国税庁長官表彰」
- ・平成29年「山形県産業賞」

特別表彰 スポーツ活動

〈優秀賞〉〈個人〉

▼中島 丈太さん

(川西町立川西中学校3年)
【ホッケー】 JOCジュニアオリンピックカップ 第48回全日本中学生ホッケー選手権大会 第3位 優秀選手

平成30年度U-15ジュニアユースホッケー日本代表 キャプテン
FHE CUP 2018 (国



際大会出場) 第2位
▼鈴木 永遠さん

(川西町立川西中学校3年)
【ホッケー】 JOCジュニアオリンピックカップ 第48回全日本中学生ホッケー選手権大会 第3位 優秀選手

平成30年度U-15ジュニアユースホッケー日本代表
FHE CUP 2018 (国

際大会出場) 第2位
▼小林 一成さん

(川西町立川西中学校3年)
【ホッケー】 JOCジュニアオリンピックカップ 第48回全日本中学生ホッケー選手権大会 第3位

平成30年度U-15ジュニアユースホッケー日本代表
FHE CUP 2018 (国

際大会出場) 第2位
▼亀井 美子さん

(長井市立北中学校3年)
【バレーボール】 平成30年度全日本中学生バレーボール選抜選手

オランダ遠征出場
平成30年度全国都道府県対抗バレーボール大会出場 (山形県選抜

主将)

平成31年度世界U-18選手権候補選手
補選手

▼設楽 奏太さん

(米沢市立六郷小学校2年)
【スキー】 第12回全国小学生アルペンスキー大会 小学1-3年生男子の部 第3位

▼鈴木 爽元さん

(米沢工業高等学校2年)

【レスリング】 2018 JOCジュニアオリンピックカップ全日本ジュニアレスリング選手権大会 カデットの部 フリースタイル80kg級 第3位

平成30年度全国高等学校総合体育大会 団体・個人80kg級 出場

平成30年度第73回国民体育大会レスリング競技 少年フリースタイル80kg級 出場

平成30年度第45回東北総合体育大会レスリング競技 少年フリースタイル80kg級 第1位

平成30年度第58回東北高等学校選抜レスリング大会 個人80kg級 第1位

2019年JOC杯全日本ジュニアレスリング選手権大会北海道・東北ブロック予選大会 ジュニアの部 フリースタイル80kg級 第1位

▼高橋 夢華さん

(九里学園高等学校1年)

【陸上】 2018 福井しあわせ国体 少年女子B100mH 第2位

▼長沼 明音さん

(九里学園高等学校3年)
【陸上】 第71回全国高等学校陸上競技対校選手権大会 女子800m 第3位

〈奨励賞〉〈団体〉

▼川西町立川西中学校 男子ホッケー部

【ホッケー】 第27回東北中学生ホッケー選手権大会優勝
JOCジュニアオリンピックカップ 第48回全日本中学生ホッケー選手権大会 第3位

特別表彰 文化活動

〈優秀賞〉〈個人〉

▼五十嵐 優花さん

(高畠町立屋代小学校5年)
【作文】 第29回ひろすけ童話感想文・感想画全国コンクール 特別優秀賞 (山形県知事賞)

〈奨励賞〉〈団体〉

▼長井市立長井南中学校 吹奏楽部
【管楽合奏】 2018 (第24回) 日本管楽合奏コンテスト全国大会 中学校A部門 最優秀賞



平成30年度 決 算

自 平成30年 4 月 1 日
至 平成31年 3 月31日

〔収入の部〕

項 目	予算額 ①	決算額 ②	比較増減 ②－①	摘 要
繰越金	1,183,236	1,183,236	0	
会 費	2,172,000	1,951,000	△ 221,000	正会員 @ 7,000× 83人= 581,000 賛助会員（個人）@ 3,000×270人= 810,000 賛助会員（法人）@10,000× 56人= 560,000
諸収入	764	9	△ 755	預金利子
〔収入合計〕	3,356,000	3,134,245	△ 221,755	

〔支出の部〕

項 目	予算額 ①	決算額 ②	比較増減 ②－①	摘 要
1 本部費	1,142,000	1,204,101	62,101	会費－（事業費＋管理費）
2 事業費	320,000	257,907	△ 62,093	
講演会・交流会費	120,000	63,892	△ 56,108	案内状送料、講師謝礼、会場使用料等
支部だより費	200,000	194,015	△ 5,985	支部だより印刷代、送料
3 管理費	710,000	478,992	△ 231,008	
事務費	180,000	180,000	0	常務理事報酬
会議費	10,000	0	△ 10,000	
総会費	20,000	13,608	△ 6,392	支部総会案内はがき印刷代、郵送料
通信運搬費	150,000	92,096	△ 57,904	会員名簿・本部総会案内・会誌等送料等
印刷費	150,000	99,911	△ 50,089	封筒印刷代等
諸手数料	70,000	44,504	△ 25,496	郵便振替手数料（会費振込分）等
消耗什器備品費	50,000	7,473	△ 42,527	プリンタラベル代
交通費	30,000	0	△ 30,000	
諸雑費	50,000	41,400	△ 8,600	商工会議所会費、ラジオCM放送代等
4 予備費	400,000	0	△ 400,000	
5 次期繰越金	784,000	1,193,245	409,245	次年度繰越金
〔支出合計〕	3,356,000	3,134,245	△ 221,755	

令和元年度 予 算

自 平成31年 4 月 1 日
至 令和 2 年 3 月31日

〔収入の部〕

項 目	本年度予算額 ①	前年度予算額 ②	比較増減 ①－②	摘 要
繰越金	1,193,245	1,183,236	10,009	前年度からの繰越金
会 費	2,041,000	2,172,000	△ 131,000	正会員 @ 7,000× 83人= 581,000 賛助会員（個人）@ 3,000×300人= 900,000 賛助会員（法人）@10,000× 56人= 560,000
諸収入	755	764	△ 9	預金利子等
〔収入合計〕	3,235,000	3,356,000	△ 121,000	

〔支出の部〕

項 目	本年度予算額 ①	前年度予算額 ②	比較増減 ①－②	摘 要
1 本部費	1,028,000	1,142,000	△ 114,000	会費－（事業費＋管理費）
2 事業費	363,000	320,000	43,000	
講演会・交流会費	139,000	120,000	19,000	講師謝礼及び案内印刷、郵送料等
支部だより費	224,000	200,000	24,000	支部だより発行（2回）印刷、送料
3 管理費	650,000	710,000	△ 60,000	
事務費	180,000	180,000	0	常務理事報酬
会議費	10,000	10,000	0	会議室借上料ほか
総会費	40,000	20,000	20,000	総会案内・資料印刷等
通信運搬費	100,000	150,000	△ 50,000	理事会案内・会報・会誌等送料等
印刷費	140,000	150,000	△ 10,000	案内葉書、封筒印刷等
諸手数料	70,000	70,000	0	郵便振替手数料（会費振込分）等
消耗什器備品費	40,000	50,000	△ 10,000	各種消耗品代等
交通費	20,000	30,000	△ 10,000	各支部等交流旅費等
諸雑費	50,000	50,000	0	商工会議所会費、ラジオCM放送代等
4 予備費	400,000	400,000	0	
5 次期繰越金	794,000	784,000	10,000	
〔支出合計〕	3,235,000	3,356,000	△ 121,000	

米沢有為会米沢支部だより

米沢有為会を支援します



株式会社タカハタ電子
代表取締役社長
渡部 隆

日頃より、米沢有為会の皆様方にはご厚情を賜り厚く御礼を申し上げます。当社は昭和49年に米沢市窪田町で創業しました。当初は、シャープ株式会社東北地区での生産拠点として家庭用テレビやビデオ、最近ではアクオスの量産工場として大きな役割を果たしてきました。

しかし近年アジア諸国との競争が激化し、家庭用電化製品の国内生産はコスト面で厳しくなり、近年は産業用機器の製造に傾注するようになりました。

現在は、タカハタ電子グループ6社（高島電子（株）・高陽電子（株）・（株）ティール・テクノ・テック共同組合・フューチャーイノベーション（株）と、全国6拠点（米沢・仙台・東京・名古屋・大阪・福岡）で、これまで培った技術や人財を活かしたモノづくりと販売を中心に事業をしております。

中でも自社ブランドで物流の省人化に役立つ『デジタルピッキングシステム』は、大手製パン会社・自動車製造会社・コンビニエンス・スーパーマーケット・各種製造業など、幅広い分野で商品仕分けや部品のキットインクなどに全国で導入して頂いております。最近では業界トップシェアの無線通信方式の表示システムが、他社にない独自のシステムで好評を得ています。

これからは、IoTやAI技術の活用など、最新のイノベーションを駆使した商品を山形から発信します。



創業以来、今年7月で46期が経過しました。これからも、お客様を第一に考え、社員の幸福と健康のために活気あふれる会社づくりをして、地元の皆様に愛され、親しまれ、社会に貢献できる企業を目指してまいります。

最後になります。米沢の発展の為、今後益々米沢有為会が活躍し貢献されることをご祈念させていただきます。



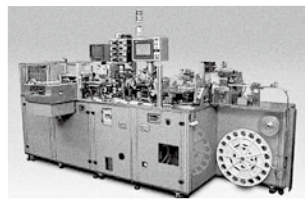
ハイメカ株式会社
代表取締役社長
横山 千広

「ものづくり」は「心」が「形」に現れる

ハイメカ株式会社は、1972年の創立以来、異種金属溶接をコア技術として電子部品製造設備と各分野のFA設備の開発に取り組み、現在コンデン

さらに、液晶テレビの技術を活かした『産業用液晶モニター』の開発製造や、山形大学と産学連携で開発した『常温食品乾燥機』・各種電源ユニットの開発製造・画像処理技術を活用した画像検査装置、システム用ソフトウェアの製作・国際標準規格『ISO』の審査受託など、多岐にわたり事業を展開しています。

サ分野、エネルギーデバイス分野、半導体分野を始め、顧客仕様に合わせた様々な装置を提供させて頂いております。特にコンデンサの中でも高性能とされるタantalコンデンサは、タブレットやノートパソコンの電源部分に主に使用されており、世界の月産10億個中約70%が当社装置で生産されています。当社の装置は注文住宅と同じように全てが受注生産であり、受注の度に設計からスタートする事がほとんどですが、創業以来47年間の装置開発で蓄積した多くの要素技術の活用により、全く新しい装置でも受注後約6カ月で納品できることが私たちの強みです。



さて、私は昭和55年に米沢工業高校を卒業し、夜学の山形大学工業短期大学部機械科に入学すると共に、学費を稼ぐため現在の勤務先ハイメカ（株）の前身である（株）ハイメカ工機に入社しました。当時、ハイメカ工機は社員数30名弱と小さな町工場でしたが、その頃から下請けではなく、大手企業と直接取引により産業用装置を開発設計製造し納品していました。山卒業後、日立米沢電子（現ルネサス北日本セミコンダクタ米沢工場）へ新卒採用となり入社したものの、装置設計の仕事はどうしてもやりたくて、ハイメカからの誘いもあり2年で退社し、元のハイメカに戻りました。ハイメカへ戻って以降は装置設計の実務を14年間行なった後、装置開発部門の管理職を経て社長就任まで、入社以来約30年間一貫して装置開発に携わってきました。これまでの

30年間技術者として「ものづくり」の仕事に携わってきた実感している事は、創る人の「心」が「形」になって現れるということです。

インターネットの普及により世界は大きく変化しました。インターネットは情報伝達のスピードを爆発的に加速し、日々増え続ける膨大な情報へのアクセスも容易になりました。今も世界は、あらゆるモノがネットにつながり、その情報をAIが処理する社会へ向かって変化し続けており、様々な仕事はAIやロボットに代わると予測されています。しかし、「心」を持った人間でなくては出来ない仕事は残っており、確かなるべきであり、育英事業を主たる目的とされる米沢有為会の活動に期待するとともに、今後も微力ながら支援させていただきます。



編集後記

★本会第3代会長を務めた平田東助（1848～1925年）の巨大な座像がJA全中から米沢市に寄贈され、8月31日（土）米沢市すこやかセンター前広場で移設竣工式が行われました。米沢市やJA、平田家の人々など約120名が銅像の「里帰り」を祝いました。

★会長時代、寄宿舎興譲館の開館、奨学貸与金の開始、本会の社団法人化などの大事業を実現し、本会の基礎を築いた偉人に今後とも折に触れて敬意を表したいものです。（手）